



英語のまちIWAKUNIを目指して、

岩国市が描く

英語教育の未来

今、日本の英語教育が大きく変わろうとしています。

2020年4月から小学5・6年生の英語が正式な教科になります（現在は教科ではなく、外国語活動）。2021年には中学校の英語の授業が原則、英語で行われるようになります。身近な話題の理解や簡単な情報交換、表現ができる能力を養います。高等学校ではさらに高いレベルが求められ、英語で議論や交渉ができる能力を身に付けることが目標となります。

岩国市は全国に先駆けて英語教育を推進するため、今年4月に「英語教育推進室」を設置しました。

これまでの取り組みや今後の方針などを紹介します。

英語教育推進室 ☎5204

1 直山調査官に聞きました

グローバル時代に大切なのは
コミュニケーション能力

外国語だけでなく全ての教科において、新しい学習指導要領が目指す一番のポイントは「子供たちのコミュニケーション能力の向上」です。

これからのグローバル時代に活躍する子供たちには「外国語を聞いて理解し、外国語で伝える力」が必要なのはもちろん、「積極的にコミュニケーションを取り、相手の思いを理解しようとする力」も必要です。

岩国市ならではの

取り組みに期待しています

岩国市には米軍基地があり、基地内の子供との交流もあると聞いています。

文部科学省初等中等教育局
教育課程課・国際教育課
教科調査官

な お や ま ゆ う こ
直山 木綿子 氏



ALET[※]による授業も大切ですが、子供同士の遊びや触れ合いの中でこそ学べることもたくさんあります。全く異なる文化で育った子供たちが、言葉も満足に通じない中で、ぶつかり合い、相手の気持ちを押し量り、折り合いをつけていく。グローバル時代に必要なコミュニケーション能力を養うのにぴったりではないでしょうか。

また文科省はタブレット端末用の英語学習アプリの利用を検討しており、岩国市は全小・中学校にタブレット端末を設置していることから、いち早く導入していただきたいと思っています。

岩国市のこれからの英語教育への取り組みを国も注目しています。

京都市立中学校の英語教諭を務めた後、2009年に文部科学省に入省。学校がカリキュラムを作成する際の基準となる「学習指導要領」の作成や周知が主な業務。小学校英語活動に関わる指導者研修会や講演会、模擬授業などで全国各地を飛び回る。10月1日、岩国市民文化会館で開催した英語教育推進フォーラムで、麻里布小学校の6年生に公開模擬授業を行った。

主体的に「コミュニケーション」を図れるグローバル人材の育成を目指して

岩国市はこれまでも英語教育に力を入れてきました。例えば、国の定める教育基準である学習指導要領には小学低学年の英語教育の規定はありませんが、岩国市では独自に小学1年生から外国語活動を行っています（下図参照）。また全ての小・中学校にALTを配置し、小学1年生から生きた英語に触れる機会を数多く設けています。同時に、小・中学校の教員の英語力・英語指導力の向上を目指して、さまざまな研修会を計画的に行っています。2020年の東京オリンピックを機

に日本のグローバル化はますます進むことが予想され、外国人と共に働き生活するのが当たり前となる時代が訪れようとしています。そのような時代を豊かに生きることができるよう「英語を用いて、主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童生徒」の育成を目指し、岩国市は今まで以上に英語教育に力を入れていきます。

英語のまちI WAKUNIを目指して

何より大事なことは「本物の英語に触れること」「その機会を増やすこと」だと考えています。そして岩国市にはそれらを可能にするための環境があります。

本物の英語を当たり前のように話す同年代の子供との触れ合いが、子供たちにとってかけがえのない体験となることは疑いようがありません。これまでも一部では米軍岩国基地内の学校との交流がありました。その機会を増やし、範囲も広げていく予定です。

「言葉が分かる、通じる」というだけでなく、日本や岩国の文化はもちろん、他国の文化をも理解し尊重できる人、互いを理解しながら話し合うことができる人、そんな真の意味でのグローバル人材を育てられるまち。これが岩国市が描く英語教育の未来です。

岩国市教育委員会
学校教育課
英語教育推進室室長

くまた えみ
熊田 恵美



学習指導要領と市の取り組みの比較（平成29年度）

学習指導要領	岩国市
●小学5・6年生の外国語活動 (年間35単位時間)	●小学1・2年生の外国語活動 (年間10単位時間) ●小学3・4年生の外国語活動 (年間10単位時間) ●小学5・6年生の外国語活動 (年間35単位時間) ●市内の全ての小・中学校に ALTを配置

語句の説明

- ※1 グローバル時代＝国や地域といった枠組みを超え、地球が1つの単位となるような時代
- ※2 学習指導要領＝全国どこで教育を受けても、一定の水準の教育を受けられるように、国が定めた教育基準
- ※3 ALT＝Assistant Language Teacherの略。英語の授業で日本人教師の補助をする外国語指導助手のことで、岩国市は全ての小・中学校にALTを配置している

岩国市英語教育推進計画

2020年から小学校、2021年から中学校で新学習指導要領が全面実施されるのに向けて、10月に岩国市英語教育推進計画を策定しました。

この計画は英語教育の推進と充実を目的に2022年度までの5年間の、学校教育分野における具体的な方策や施策を示したものです。

詳細は市ホームページに掲載しています。





2月に市内の小・中学生を対象に実施したアンケートで「将来、社会人になったときに英語は必要だ」と回答した児童・生徒の割合が9割に達しました。しかし英語に対する好感度については「好き」と答えた5年生の児童が7割近くいたのに対し、中学2年生では5割程度に減少しています。児童・生徒の英語への学習意欲を保ちつつ、英語力を高めるための取り組みが必要です。

今後、新しい学習指導要領が実施され、児童・生徒に求められる英語力はますます高くなっていきます。また指導する教師の英語力・指導力の向上も欠かせません。

実際に小・中学校で英語を学んでいる児童・生徒や先生に、岩国市の英語教育について、どのように思っているか聞いてみました。



麻里布小学校6年
よしやまりようが
吉山怜雅さん

英語の時間は楽しいので、学校の授業の中で2番目に好きです。最近では自分の行ってみたい国を友達と紹介し合いました。英語を使ったゲームなど、遊び感覚で勉強できるので、いつも楽しみにしています。

今年になって岩国市に住む外国人の方が増えたと聞きました。街を歩いていて出会うことも増えたと、僕の近所にも外国人の方が住んでいます。英語がしゃべれるようになったら仲良くなれるし、困っている時には助けてあげたいと思います。

僕たちが大人になった頃には、英語を使う機会が増えていると思います。しっかりと勉強して、英語をしゃべれるようになりたいと思っています。



岩国西中学校3年
いづかふうか
飯塚楓花さん

英語をもっと話せるようになりたくて、今年の夏に岩国市イングリッシュキャンプに参加しました。2日間、しっかりと英語に触れることができ、とてもいい経験ができました。特にジェスチャーを使って自分の意見を伝えることに自信が持てたし、イントネーションの勉強にもなりました。バーベキューや先生たちの一発芸も楽しかったです。

中学校にもALTの先生が来てくれるので、授業だけでなく休み時間にも積極的に話しかけ、会話をできるようにしています。先日は映画の話題で盛り上がりました。

将来は海外で活躍できるスノーボーダーになりたいと思っていますので、これからもしっかりと英語の勉強をしていきたいと思っています。



川上小学校教諭
かめだまさかず
亀田雅一さん

10年以上前の話ですが、小学校に英語が導入されると聞いた時は、正直「えー、そんな話聞いてないよ」と思いました。戸惑いはありませんでしたが、研修などを重ね、児童が楽しみながら学べる授業ができるようになってきたと思います。

どれだけ勉強しても「自分の発音は正しいのだろうか」という不安が残りますが、幸い岩国市はALTによる授業支援が充実しています。子供たちが本物の英語に触れる機会が多いので安心です、私自身の勉強にもなっています。

小学校の英語授業化に伴い、私たち教師が最も気を付けないといけないのは「英語嫌いの子供」を作らないということです。今まで以上に、楽しくて力の付く授業ができるように、これからも工夫を重ねていきたいと思っています。

平成30年度の日米交流の主な取り組み

- 日米合同スポーツ交流
- 岩国市イングリッシュキャンプ(3回)
- 日米交流コンサート
- 岩国基地内見学バスツアー など

今後実施を検討していく取り組み

- 基地内の学校との相互訪問交流
- 英語学習アプリの導入
- 英語民間試験の活用
- ALTの中学校への常駐化 など

英語教育推進室を中心に、今後も新たな取り組みを進めていく予定です。英語の授業の質を高めるとともに、基地内の子供との交流などで、英語を使う機会を増やすことを大きな柱とし、「英語のまちIWAKUNI」を目指していきます。

4 "英語のまち IWAKUNI" を目指して



7月27・28日 イングリッシュキャンプ



市内の小・中学生を対象に参加者を募集し、由宇青少年自然の家で1泊2日のイングリッシュキャンプを行いました。

英語を母国語とするALTと一緒に2日間生活し、活動全般を英語で行い、自己紹介やゲーム、バーベキューなどを通して、楽しみながら英語を学習することができました。

子供たちへ行ったアンケートには「英語を身近に感じられた」「簡単な会話ができるようになった」「もっと英語を話せるようになりたい」などの回答がありました。

7月21日 日米合同スポーツ交流 in IWAKUNI



市内の小学生を対象に参加者を募集し、愛宕スポーツコンプレックスで、基地内に住む子供たちとスポーツを通じた交流を行いました。

日米の混合チームで、リレー対決やドッジボールなどを楽しみ、「ナイス」「アリガトウ」などの簡単な会話で交流をする様子が見られました。

フレンドシップツアー
in IWAKUNI

親子向けの基地内バスツアーに参加しませんか？

基地内で交流し、アメリカの文化に触れることで、英語への興味を高めましょう。

■日時 1月14日(祝) 9時30分～13時30分

■対象 市内在住の小・中学生の親子25組50人(応募者多数の場合は抽選)

■集合・解散場所 市役所正面玄関

■内容 基地内施設での交流(イワクニミドルスクール授業参観など)、フリードコートでの昼食会など

■料金 無料(昼食代は各自負担)

■申し込み 申込書(市内の小・中学校、学校教育課で配布)に記入の上、各学校または学校教育課英語教育推進室へ提出

■申込期間 12月6日(木)まで

■注意事項 当日、パスポートなどの証明書が必要

■問い合わせ 英語教育推進室
☎5204